

令和元年度
事業報告書



Meitoku
since 1925

学校法人千葉明德学園

目 次

I 法人の概要	1
1. 法人の名称	1
2. 事業所の所在地	1
3. 建学の精神	1
4. 学校法人の沿革	1
5. 設置する学校	2
6. 附帯事業	2
7. 姉妹法人	2
8. 役員	2
9. 教職員の状況	2
10. 学生・生徒・園児の数	3
11. 土地・建物の状況	3
II 事業の概要	4
1. 学園全体の状況	4
2. 法人事務局	5
3. 千葉明德短期大学	6
4. 千葉明德高等学校	8
5. 千葉明德中学校	11
6. 千葉明德短期大学附属幼稚園	12
7. 明德本八幡駅保育園	13
8. 明德浜野駅保育園	15
9. 明德やちまたこども園	16
III 財務の概要	18
1. 事業活動収支の推移	18
2. 施設設備への投資額の推移	19
3. 借入金の推移	19

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人千葉明德学園
2. 事務所の所在地 千葉県千葉市中央区南生実町1412番地
電話番号 : 043-265-1611
FAX番号 : 043-265-1651
URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/>

3. 建学の精神

「明明徳於天下者先致其知」 明德を天下に明らかにせんとする者は、先づその知を致せ。

法人名及び開設する全ての学校、施設名に用いられている「明德」は、中国の古典「大学」の一部にある「明明徳於天下者先致其知」（明德を天下に明らかにせんとする者は、先づ其の知を致せ。）を引用したものである。

「明德」の由来は、約2000年昔の中国の古典「大学」にある。「大学」といっても高校を卒業してから行く大学のことではなく、「小学」に対する「大学」の意味である。

「小学」とは「小さな学問」、いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問で、一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問 — 自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味する。

「大学」には、大学を究めるためにはどうしたらよいのかが次のように書かれている。

「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということであり、それこそが本学園の使命である。

4. 学校法人の沿革

1925年 1月	千葉淑徳高等女学校 設立創立者 福中儀之助 初代校長に就任 (千葉市登戸町3丁目)
1925年 4月	開校式 挙行 (定員600名)
1943年 7月	財団法人千葉淑徳高等女学校となる
1947年 5月	学制改革により千葉明德高等学校・同中学校に改組
1951年 1月	学校法人化し、学校法人千葉明德学園となる
1963年 4月	高校男子部の新設
1964年10月	昭和39年 千葉市中央区南生実町全校移転
1966年 5月	昭和41年 体育館 竣工
1967年 5月	千葉明德学園幼稚園 設置認可
1970年 1月	千葉明德短期大学 設置認可
1970年 4月	千葉明德短期大学 開学
1972年 4月	千葉明德中学校最終卒業生高校進学 以後休校 千葉明德学園幼稚園から千葉明德短期大学附属幼稚園に改称
1974年 4月	高校 男女共学となる
1992年 7月	現理事長 福中儀明 理事長就任
2003年10月	明德本八幡駅保育園 開園
2006年 4月	社会福祉法人千葉明德会設立 明德土気保育園 開園
2010年 4月	明德浜野駅保育園 開園
2011年 4月	千葉明德中学校 開校
2012年 3月	千葉市と「避難所施設利用に関する協定」締結

- 2013年 4月 社会福祉法人千葉明徳会 明徳そでの保育園 開園
 2015年 3月 学校法人北総学園と合併 同年4月明徳やちまたこども園 開園
 2018年 4月 認定こども園千葉明徳短期大学附属幼稚園 幼稚園型認定
 こども園に移行
 2020年 4月 社会福祉法人千葉明徳会 明徳土気保育園 幼保連携型認定
 こども園 明徳土気こども園に移行

5. 設置する学校 (1) 千葉明徳短期大学保育創造学科
 (2) 千葉明徳高等学校 全日制課程普通科
 (3) 千葉明徳中学校
 (4) 認定こども園千葉明徳短期大学附属幼稚園
 (5) 明徳やちまたこども園
6. 附帯事業 (1) 明徳本八幡駅保育園 (第二種社会福祉事業)
 (2) 明徳浜野駅保育園 (第二種社会福祉事業)
7. 姉妹法人 (1) 社会福祉法人千葉明徳会
 (2) 明徳土気こども園・明徳そでの保育園を運営

8. 役員 (平成31年4月1日現在)
- 理事長 福中 儀明
 副理事長 鈴木 総美
 理事 金子 重紀(千葉明徳短期大学学長)
 理事 園部 茂 (千葉明徳中学校・高等学校校長)
 理事 柴田 炤夫
 理事 南 金次 (内部監査室長)
 理事 木原 稔 (事業開発室長)
 理事 高浦 芳一
 監事 荒木 由光
 監事 神子 信行

9. 教職員の状況(専任教職員数及び平均年齢) (令和2年3月31日現在)

	人員数	平均年齢
短期大学教員	18名	43.1歳
高等学校教員	54名	42.6歳
中学校教員	14名	39.9歳
幼稚園教員	21名	36.7歳
本八幡駅保育園	14名	37.1歳
浜野駅保育園	8名	37.5歳
やちまたこども園	13名	38.4歳
事務職員	29名	44.0歳
合計	171名	39.9歳

(注) 短期大学学長、高等学校校長は、理事(役員)であることから前項の役員一覧に記載し、表の数には含めていない。

10. 学生・生徒・園児の数

(令和元年5月1日現在)

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
千葉明德短期大学	150名	300名	205名	1年	99名
				2年	106名
千葉明德高等学校	400名	1,200名	1,078名	1年	392名
				2年	361名
				3年	325名
千葉明德中学校	120名	360名	189名	1年	80名
				2年	74名
				3年	35名
千葉明德短期大学 附属幼稚園	(1歳児) 15名	315名	289名	1歳児	14名
	(2歳児) 15名			2歳児	15名
	(3歳児) 95名			3歳児	76名
	(4歳児) 95名			4歳児	101名
	(5歳児) 95名			5歳児	83名
明德本八幡駅保育園		45名	49名	0歳児	10名
				1歳児	21名
				2歳児	18名
明德浜野駅保育園		36名	42名	0歳児	6名
				1歳児	9名
				2歳児	7名
				3歳児	8名
				4歳児	6名
明德やちまた こども園		75名	78名	0歳児	4名
				1歳児	8名
				2歳児	12名
				3歳児	21名
				4歳児	19名
				5歳児	14名

11. 土地及び建物の状況

(1) 土地の状況 (令和2年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校地	0	13,005	67,975	4,550	2,871	88,401
その他の土地	472	0	0	0	0	472
合計	472	13,005	67,975	4,550	2,871	88,873

(2) 建物の状況 (令和2年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校舎	0	3,844	12,016	1,712	705	18,277
附属施設	0	0	3,419	0	0	3,419
その他の建物	0	10	48	0	0	58
合計	0	3,854	15,483	1,712	705	21,754

II. 事業の概要

1. 学園全体の状況

令和元年度の学園財政の状況は、事業活動収入24億5,527万8千円に対し、事業活動支出24億1,143万2千円となり、基本金組入前当年度収支差額はプラス4,384万6千円を計上し、平成24年度から8期連続で収入超過となった。

(詳細は「Ⅲ財務の概要」に記載) 学園全体での基本金組入前の収支差額は、プラスの決算となったが、収支差額マイナス部門の抜本的な改善計画が急務である。

各部門における状況は、短期大学においては、令和元年度も過去数年の課題であった学生募集を最重要課題として掲げた。短期大学の施設規模、並びに学生への指導充実の観点から定員150名から120名へ変更を行い、結果、離職者再就職訓練生10名を含め定員120名を確保した。保育事業4園、姉妹法人2園を支える「総合保育創造組織」の中核である千葉明德短期大学の学生数確保は、最重要課題であり、近隣他校との差別化をはかり次年度、引き続き定員確保が必須である。

一方、学園経営の中心である高等学校においては、学校改革第2ステージ3年目と位置づけこれまでの進学実績を踏まえて、令和2年度大学入試改革初年度を目前に、従来の入試制度の集大成と位置づけ取り組んだ年度であったが、都市部への学生の集中を回避する傾向は変わらず、上位大学への進学は厳しい状況であった。

また、令和元年度で9年目を迎えた中学校は、2年連続で3クラスの体制でスタートした。中高一貫コースの大学進学実績が着実に評価されつつあり、安定した生徒募集へ繋がっているものと確信する。今後も、3クラス募集を維持しながら、受験者増を目指したい。千葉明德中学校・高等学校の教育活動の実践が地域に周知され、まさしく「選ばれる学校」へ着実に前進しているものと思われる。

認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園においては、開園から2年目を迎え、保護者に本園の教育理念・保育方針の理解を求め、共有し、協力のもとに幼稚園と家庭の両面で子どもたちの育ちを支え連携を図ることを、教職員全員で試行錯誤しながら取り組んだ。また、次年度の園児募集を視野に入れた「子育て支援事業の充実」として、「お話し会」、「親子で楽しむ遊びの会」、「親子でヨガ」、「書道の会」等の様々な取り組みを行った。しかしながら、1号認定こどもの定員80名に対する入園者数は、52名でスタートする結果となった。令和3年度への募集活動は、この現状を分析し、抜本的な対策を講じ、定員確保ができなければ、大幅な組織改革も視野に入れなくてはならない状況となった。

保育事業3園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園においては、昨年同様に、各園ともに定員を超える園児数を確保し、各園の運営方針、保育並びに教育目標に基づき安定した運営状況で順調に推移した。各園での管理者および保育士のきめ細やかな対応や、時間をかけて計画した行事等が、地域に根ざした取り組みとして着実に評価されているものと思われる。

2. 法人事務局

(1) 中学校・高等学校部室棟の新築

令和元年度新たに着手した事業としては、千葉明德中学校・高等学校のグラウンド西側に位置する部室棟の老朽化に伴い、学校法人千葉明德学園100周年記念事業の一環として、またグラウンド整備計画4期(最終)工事として、野球、サッカー、陸上、テニス等の屋外で活動する中学校・高等学校の部活動生徒、約350名を収容する部室棟の新築工事を実施した。竣工は、令和2年5月、館名は「CHIBAMEITOKU 桜坂トレーニングセンター」とした。1Fミーティングルームには、Wi-Fi環境を整備し、ホワイトボード、会議用什器備品、トレーニングルームには、21台11種類のトレーニング機器を設置した。2、3階の各部屋にもスチール棚等の什器備品が配置された。今後の各部活動の活躍を期待し、環境の整備が行われた。

(2) 第2グラウンド用地整備

昨年度から着手した第2グラウンドの用地整備については、テニスコート、多目的グラウンド、多目的広場の建設計画が、100周年記念事業として順調に進んでいる。整備対象地の山林部分、水田部分については、各地権者との賃貸契約の本契約がほぼ終了した。全契約面積は(公簿上)7.77ha、地権者16名となる。現在は、開発行爲の許可申請「事前協議」を進めている段階である。今後も新しい教育事業の展開を見据え、学園運営の更なる発展に資する効果的な活用を検討していきたい。

(3) 働き方改革への対応、労使協定の締結

令和元年4月から始まった中小企業対象の「働き方改革関連法案」施行に伴う、中学校・高等学校における労働時間管理、部活動の指導時間に対する問題、短期大学における教員の労働時間管理、教職員全体における年次有給休暇取得の義務化等の検討を社会保険労務士と各部門管理者、教職員を交えながら検討を進め、就業規則、給与規程の変更、1年単位の変形労働時間制カレンダーの作成、給与体系表の変更等の様々な改革に着手し、令和2年3月には、中学校・高等学校教職員代表と36協定を締結し労基署への届け出を終えた。

又、年次有給休暇5日取得の義務化については、各部門とも年間スケジュール等を再確認、再検討し、全教職員年次有給休暇の5日取得を100%達成した。また新たに教職員の長時間労働抑制、労働時間把握の手段として、タイムカードからICカード認証へ移行した。次年度も、継続的に「ワークライフバランス」、「多様で柔軟な働き方」について検討、協議を進めていく。

(4) 寄付金事業の充実

令和元年度の寄付金の増収に向けては、卒業生の帰属意識向上を図る広報に加え、所得税額控除が可能となる特定公益増進法人への認定を受けた募集展開、恒常的な寄付「千葉明德学園DREAM&CHALLENGE募金」の募集開始、寄付金募集HP(クレジットカード決済可能サイト)の立ち上げを行い、その基盤を構築した。具体的な募集活動としては、これまでに本学園に対して寄付した実績のある高等学校卒業生及び高等学校第27期生(昭和52年3月卒)を中心に、約1,500人に対して募集パンフレットを送付した。その結果、約60万円の寄付金収入に繋がった。

(5) 学園及び設置校の認知度向上に向けた広報活動

本学園の知名度向上により学生(生徒、園児)募集へ好影響をもたらすこと、卒業生の本学園に対する帰属意識を高め寄付へ向けた意識を醸成することを目的に、SNS(Twitter)を運用した広報を展開した。100周年記念事業講演会「浦沢直樹氏 講演&ライブドローイング」の一般聴講客募集、著名アーティストのサプライズライブ報告等をは

じめ本学園の行事を広報した結果、1万人を超える閲覧者を獲得したツイート（話題）も度々あり、最多で3万人を超える閲覧者を獲得したツイートもあった。加えて、前述のイベントは一般紙、テレビ、ネットニュース等、マスコミにも取り上げられ、知名度向上について一定の成果を得られたと考える。一方で、卒業生の帰属意識向上、寄付機運の醸成を意識した広報については、多くの卒業生が関心を持ちやすい高等学校運動部の活動報告を中心に報じ、卒業生を中心に250人を超えるフォロワーを獲得するに至った。

(6) 台風被害について

令和元年9月9日未明の台風15号の襲来により、学園施設は、甚大な被害を受けた。学園内各所に存在するヒマラヤ杉が強風により倒れ、近隣道路を封鎖、又、学園から駅までの動線となる通路も通行不能となった。学園施設においては、1号館6階展望室、西側部室棟屋根、給水設備の損壊、空調室外機転倒等で被害総額は、約3,000万円となった。教職員誰もが、「当面の間、学校再開は不可能」と感じた。

しかしながら、近隣の取引業者の協力、また教職員による献身的な復旧活動により、何とか学校再開にこぎ着ける状態となり、2日間の停電の後、各部門とも通常業務ができる状態となった。9月の台風被害、10月の台風及び大雨被害、自然の驚異に思い知らされた年であり、改めて、自然災害への備えの必要性を再認識させられた年であった。

3. 千葉明德短期大学

本年度は、ここ数年の課題である学生募集を最重要課題とし、カリキュラム改革に向けた教育内容の充実を基本的な方針として運営に取り組んできた。また、定員を1学年150名から120名に変更した。

(1) 定員の変更について

令和元年度、令和2年度からの入学定員を150名から120名に変更した。少子化の下、大学・短大への進学者数自体が減少しており、本学の入学者も、90名～110名で推移している。その現状を前提に、本学の施設の規模、及び一人ひとりの学生に対する指導を充実させるという観点から、教育成果を上げるために適正な定員を検討した結果である。現状からすれば100名定員とすることも考えられたが、保育士、幼稚園教諭を必要としている社会の要請に応えることが保育士・幼稚園教諭養成校である本学の社会的使命であることから定員120名とした。

(2) 学生支援

①教育と保育実践の連携、

“総合保育創造組織”としての附属幼稚園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園及び姉妹法人が運営する明德土気こども園（令和元年度までは保育園）、明德そでの保育園は、本学学生の実習先であることはもちろん、ボランティア、有償研修（アルバイト）等、様々な形で学生を受け入れ、学生は保育現場に入り、学びを深めている。また、学生の就職先という観点から、本学内での就職説明会を開催し、ともに学び続ける保育創造組織の一員の育成についても連携を深めてきた。

令和元年度は、同じ敷地内にある附属幼稚園について、より具体的な連携の在り方について改めて検討を始めることとした。その結果、令和2年度から附属幼稚園の園長を本学の明石教授が兼務することとなった。

②教育課程での取り組み

本学の学びの原点である「体験から学ぶ」、「学び合う」を実現するとともに、個々の学生に対する支援の充実が、本学の教育の中心である。そのために、平成27年度、将来的な Semester 制を導入し、通年科目を半期科目に分割し、教料群を再編成する等のカリキュラム改革を行い、令和元年度はこれが定着したと考えられる。その結果、1学年においては、前期に半期科目の成績が出たため、各学生の学習状況についての把握を行うことが可能となり、個別指導の充実を図ることができた。また、従前から実習指導、ゼミ、現代社会論等、学生と教員の関係作りを様々な教科で図ってきた。その結果、1年生の退学者は6名であったが、2年生の退学者は出なかった（在学生106名中、1名休学、1名留年（9月卒業見込み））。また、後述するように就職決定率は100%を達成することができた。さらに、専門科目を学ぶ上での基礎として、教養科目の充実を図り、平成29年度から始めた1年次の教養基礎演習、教養総合演習の取り組みを充実させ、学生の学ぶ意欲の向上を図った。

③教育課程外の取り組みの充実

教育課程外での取り組みとして、卒業生が保育現場に勤務しながら、月に2回学校に戻り、現場での体験を基に教員と学びを深める「保育臨床研修コース」（研修生制度）を開講する予定であったが、本年度は希望者がいなかった。

平成30年度まで行ってきた「明德あそぼうカー」の取り組みは、今後の展開を検討し、令和2年度中に再開する予定である。

その他、公開講座「めいトーク」、「教員免許状更新講習」も継続して行った。

また、千葉市と千葉市内の3短大（千葉経済大学短期大学部、植草学園短期大学、本学）と連携事業（平成27年度からスタート）として、下記の講座を実施した。

ア. 「千葉市子育て支援員研修」の「基本研修」と「現任研修」の委託を受けて、研修を実施した。

イ. 「潜在保育士研修」、「キャリアアップ研修」の委託を受けて、研修を実施した。

ウ. 現場保育士のさらなる学びのためのサバティカル研修を実施した。

(3) 学生募集

冒頭で述べたように、1学年の定員を120名に変更した下での学生募集を行った。その結果、令和2年度の入学者数は、離職者等再就職訓練生（保育士養成コース）10名を含めて120名（昨年度より21名増、定員充足率100%）となった。これは、ここ数年の積み上げ、すなわち、保育養成校志願者の減少傾向の下、競合校との競争も激化していると見られる中、基本的な方針を維持しつつ、オープンキャンパス、高校訪問等を通じ、より確実に一人ひとりの受験生に本学の魅力を伝え、個々の受験生の希望が本学で実現できることを理解されるよう徹底した募集活動を全学的に行ってきた結果であると考えられる。この中で、個々の受験生の要望に応じた多様な入試方法（特待生試験（音楽、小論文）、保育体験入試）を用意してきたが、これも個々の受験生に対応する本学の姿勢を示すものとして効果があった（保育体験入試等に応募する学生はいなかったが）と考える。

(4) まとめ

以上の取り組みを通して、本学の学びの原点である「体験から学ぶ」、「学び合う」の実現を図り、教育内容の充実、本学の学びの魅力を深めてきた。このことは、一人

ひとりの学生に対する丁寧な支援を実践することである。その成果として、退学者の減少、就職決定率100%を達成できたものとする。

(5) その他

令和元年度卒業生(49回生)就職状況 (令和2年3月31日現在)

卒業者数	104人
就職希望者数	100人
就職決定者数	100人
就職決定率	100%

(就職先内訳)

就職先種別	人数	比率
幼稚園	8人	8%
認定こども園	10人	10%
保育所	45人	45%
福祉施設(保育所を除く)	22人	22%
認可外保育施設・学童保育	4人	4%
公務員	4人	4%
公立臨時採用	2人	2%
一般企業等	5人	5%

学生の就職先に関しては、保育所への就職率が高い傾向が続いているが、その要因としては、募集数は保育所が幼稚園の約1.5倍であること、保育所の保育士不足が盛んに言われている中、学生の意識も保育所への就職意識が高いと考えられる。また、2年間の学びの中で、福祉施設への関心が学生の中で強くなる傾向があり、福祉施設の職員不足にも対応して増加傾向を示している。

4. 千葉明德高等学校

令和元年度は、学校改革第2ステージの3年目にあたり、まとめの年度として位置づけ、1年間の教育活動に取り組んできた。学校改革第2ステージでは、これまでの進学実績や部活動の成果を踏まえて、①グローバル力の育成(使える英語力の身につける)、②プレゼンテーション力の育成、③ICT活用力育成を柱として、教育活動を進めていくことを方針としていた。そして、2020年度大学入試改革初年度を目前に、3年生は従来の入試の最後の学年として臨んでいく学年であった。

生徒募集においては、次年度より公立高校入試が一本化される入試に変更となる情勢を受け、内申点を1上げた形での募集活動に臨んだ。

さらに令和元年度は、2学期に三度の台風被害に遭い、今後の災害への備えも多くの点で課題を残す1年であった。

(1) 教育目標等に対する成果について

- ①『進学校化』という方針の下で、この間教育システムを確立してきた。全学年、始業前の20分間に朝学習という時間をおいているが、令和元年度も様々な点で進化してきた。特にICT機器を導入した中で、iPadを利用した取り組みが随所に広がった。結果的に、授業と一体化して学習内容を深め、学習習慣を確立させることに繋がっている。

② 2020年度大学入試改革にむけて、英語教育における4技能への対応を進めてきた。しかし、令和元年11月の時点で、大学入試改革の柱であった英語民間試験の導入が先送りとなり、現場は大いに混乱した。本校は文科省が言うまでもなく、グローバル化に対応する英語4技能の育成は大方針として掲げており、今後もぶれることなく継承していく。令和元年度も、語学研修プログラム（プリティッシュヒルズ研修、校内英語集中ゼミ、セブ島短期語学研修、オーストラリア・スプリングフィールド短期交換留学）を実施してきた。それぞれの研修に多くの生徒が参加し、英語を習得して異文化を理解しようとする積極的な姿勢がみられた。

③ ICTについては、教職員がiPadを活用するようになって4年、また生徒がiPadを持つようになって3年が経過した。この間、教員、生徒ともiPadの利用に習熟し、iPadを活用したさまざまな授業実践を充実させてきた。

さらに、今回が3回目となるICT公開授業を11月15日に開催した。今回は、千葉県教育委員会の視聴覚部会との共催で実施し、本校の取り組みを報告し、高い評価を受けた。

また、2月末から新型コロナウイルス感染拡大に伴い突然、全国の学校が臨時休校を余儀なくされたが、本校は素早くオンライン授業に切り替え、生徒の生活リズムを整え学習意欲の継続が出来た。

(2) 進路指導について

以下は、令和元年度の卒業生325名の進路実績である。

	男子	女子	合計	全体比率
国公立4年制大学	2	2	4	1.2%
私立4年制大学	125	86	211	65.0%
短期大学	5	12	17	5.2%
各種専門学校	20	23	43	13.2%
就職（公務員）	1	0	1	0.3%
就職（企業）	2	3	5	1.5%
その他（浪人・留学等）	34	10	44	13.5%
総合計	189	136	325	100.0%

〈 主要大学の合格実績 〉 (含む浪人)

千葉大学1名 東京芸術大学1名 茨城大学2名 上越教育大学1名
 佐賀大学1名
 東京理科大学2名 明治大学1名 青山学院大学3名 立教大学2名
 中央大学2名 法政大学2名 学習院大学1名 立命館大学2名
 成蹊大学1名 成城大学3名 明治学院大学4名 獨協大学3名
 國學院大学1名 東邦大学8名 芝浦工業大学1名 日本大学14名
 東京農業大学2名 東洋大学20名 駒澤大学9名 専修大学2名
 東京都市大学1名 順天堂大学2名 東海大学6名 近畿大学2名
 京都産業大学2名 獨協医科大学1名(医学科) 埼玉医科大学1名(医学科)
 日本歯科大学1名 東京薬科大学4名 北里大学4名 星薬科大学1名

一昨年から続く都内難関私立大学の合格者数絞り込みに加え、2020大学入試改革前年度にあたり、一般受験受検者が激減したことにより、難関私大への合格実績を伸ばせなかった。

また、進学校化という方針に合わせた、的確な情報発信を可能にするために、従来の進路学習指導部の部屋に中高一貫コース・特別進学コースの職員も集め、一体となって取り組む組織改革を行う計画を進めてきた。

(3) 部活動（課外活動）と特別活動について

アスリート進学コースを中心とする部活動の主な成績は以下の通りである。

チアリーディング部	関東チアリーディング選手権大会	4位
	JAPANCUP 2018 全日本選手権	3位
硬式野球部	夏季千葉県大会	選手権大会ベスト8
	千葉市高等学校野球大会	優勝
サッカー部男子	関東高校体育大会千葉県予選	ベスト8
	千葉県高校総体決勝トーナメント	ベスト16
剣道部	千葉県高等学校総合体育大会	3位
女子柔道部	関東高校体育大会千葉県予選	3位、関東大会出場
水泳部	千葉県高等学校総合体育大会	入賞複数
	インターハイ 2019 アジアパラ	複数メダル（荻原虎太郎）
バドミントン部	関東大会千葉県予選	3位
	関東高校選抜大会（ダブルス）	4位（全国選拔出場）

本校では全校生徒の約9割が、体育系・文化系含めた部活動に所属し、日々活動に励んでいる。朝学習・特別セミナーといった課外学習のプログラムがある中でも、それらと両立しながら部活動にも積極的に取り組んでいる。

またアスリート進学コースについても、部活動にだけ専念することは認めず、ふだんの学習がしっかりできていることが、部活動を行うための前提であることを生徒に意識づけている。この点は、本校のアスリート進学コースの大きな特徴として今後も全面に打ち出していく。

(4) その他、特徴的な活動について

① 体育祭

令和元年度は、6月6日（木）に実施した。気温が上昇し、熱中症なども懸念されたため、午前中のみ短縮プログラムでの実施となった。短時間の中でも、本校の大きな特色である学年縦割りにより4つの色別対抗で応援団を組織し、応援合戦を繰り広げるなど体育祭らしい内容となった。

学年ごとの団体競技では、3年生は恒例の民謡を披露し、リレー等の競技種目では、アスリート進学コースの生徒たちを中心に運動能力を発揮し、熱のこもったレースが展開された。その他、部活動対抗リレーでは、部活動ごとの団結を発揮し、大いに盛り上がりを見せた。

② 文化祭

令和元年度の2学期ほど、自然災害の脅威にさらされた年はなかった。台風15号が襲来した翌日の9月9日の早朝、変わり果てた学園の状況に、当分の間、学校の再開は無理だと感じた。その後、2日間の停電が続いた中、教職員の一刻も早く学校の再開をという熱い思いの下で、献身的な復旧作業が行われた。11日から電気も復旧し、学校再開にこぎ着けることが出来た。生徒が登校し、急ピッチで文化祭準備を行い、予定を短縮したものの13日（金）・14日（土）の両日、文化祭を実施することが出来た。一般公開日の来校者からは、生き生きした生徒の活動の様子に『元気ももらいました。』との声が多く寄せられた。厳しい状況の中でも、文化祭までやりきった生徒・教職員の熱意と、保護者・PTAの方々のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げたい。

令和元年度は、自然災害の脅威、また2020大学入試改革の突然の方針変更など、予期せぬ出来事に翻弄された1年だった。そんな中に本校は、学校改革第2ステージの3年目が終了した。第1ステージからの6年間、「進学校化」という方針の下で様々な改革を断行し、さらに生徒募集においても二度に亘って大きな変更を伴う挑戦をしてきた。そして、この間の学校改革の様々な成果により、地域・社会における本校への評価は大きく変化してきたと考えている。これまでの成果と課題を教職員全員で共有し、2020年代をスタートしていくにあたっての土台としていきたい。

5. 千葉明德中学校

令和元年度千葉明德中学校は、平成23年4月の開校から9年目を迎えた。昨年度3月に卒業した4期生までの進学実績等の成果の下に、令和元年度入学者9期生は(9期生)は80名で、2年連続で3クラス体制を実現することができた。

そうした中、一貫コース4期生の大学進学実績は、卒業生35名に対して、茨城大(2名)、佐賀大(1名)の国立大をはじめ、上位私立大では、東京理科大(1名)、青学大(2名)、法政大(1名)、明治大(1名)、立教大(2名)、國學院大(1名)、明学大(2名)他という結果であった。また、一貫コースからの浪人生も頑張り、千葉大学、獨協医科大学・医学部医学科埼玉医科大学への合格を果たした。こうして4期にわたって卒業生を送り出す中で、本中高一貫コース6年間のカリキュラムも定着してきたと言える。その柱となるのが「まとめて書いて発表する」であり、総合学習や教科指導、また学校行事等で、探究心やプレゼンテーション力を育成することが、上級学校に進学して以降も大きな力となっていることを確信している。ここ数年、こうした取り組みの結果が、中学受験でも高く評価され、安定的な募集の成果へと繋がっていると見える。

令和2年度は中学校開校から10年目を迎える。これまでの教育の成果を振り返り、さらなる躍進を遂げるための区切りの年となるが、建学の精神に基づき、更なる目標を明確にして、新たな歩みを続けていきたい。

(1) 教育活動と成果について

建学の精神に基づき、これまでの実績を踏まえつつ、生徒一人ひとりの豊かな成長を目指し、教育目標である「行動する哲人」を具現化する教育に取り組んできた。

特に当面の高大接続改革や新学習指導要領といった教育情勢の変化を見据えつつ、本校が先進的に取り組んでいるICT教育を推進することで、本校の独自性を発揮した教育を実現してきた。

具体的には、総合学習や教科指導等で、生徒一人ひとりが自らのiPadを活用することで、主体的・対話的な学びを推し進め、その成果をプレゼンテーションや課題研究論文を通じて発表している。また、それらの成果をeポートフォリオにより振り返る作業を積極的に行っている。これらの実践は、教員研修や他校とのやりとりなど、絶えず新しい情報を得ることで、指導内容を改善している。

(2) 募集活動と成果について

令和2年度入試も、これまでの募集体制を維持しつつ、学校説明会や模試などで積極的に広報活動を実施してきた。説明会では、本校の教育の特長を積極的にアピールするために、iPadを活用した授業実践の紹介や、プレゼンテーションの様子などを、生徒の活動を全面に出した募集を行ってきた。このことが、受験生や受験生の保護者に本校の教育に興味をもつていただく、大きな契機になっている。また、こうした特長を入試でも活用するために、適性検査型入試やルーブリック評価型入試を取り入れ、本中学校入試の独自性を打ち出してきた。そのことが、受験者数の増加につながっていると見える。その結果、令和2年度入試では、受験者数490名、入学者数71名の成果につながった。

(3) その他の取り組みとその成果について

iPad を全生徒が持つようになってから、令和元年度で4年目を迎えた。Classi、ロイロ、Google Form 等のさまざまな教育プラットフォームを導入することに伴い、場面や状況に応じて柔軟に使い分ける実践を蓄積してきており、教員も生徒も習熟をみせている。特に探究学習やプレゼンテーションでは、デジタル資料の配付時間の短縮や整理、効率的活用で、iPad の活用が大いに役立っており、また、総合学習や授業での発表や意見交換などでは、スムーズでかつダイナミックな展開がなされている。例えば、中3修学旅行中での振り返りにグループで動画を作成して、その日の晩に発表するといった取り組みがなされており、その場での投げかけとリアクションを実現できている。

iPad 活用は授業にとどまらず、学年通信の配信や諸連絡、行事予定の確認などをダイレクトに配信できるメリットがあり、連絡手段がより迅速かつ効率的な実施がなされている。また災害等の緊急時の対応にもすぐれている。

以上が、開校10年目を迎えようとしている中高一貫コースのまとめである。中高一貫教育には、当然のごとく次の二つのことが求められる。一つ目は、中高6年間の中の合理的な学習システムの中で希望する大学への進学を実現できる高い学力を身につけること、二つ目は、高校受験がない中で、多感な6年間を余裕を持って過ごし、人間的にも大きく成長させることである。この二つの要求をバランス良く実現していくことが、今後の学校運営に必要不可欠であり、当然そのことが安定的な募集にも結びついていくことになる。2020年代の当面の目標として、3クラス募集を継続しながら、受験生数を増やすこと、そして受験倍率を上げながら生徒の全体的なレベルアップを図っていくことに照準を絞っていきたい。

6. 千葉明德短期大学附属幼稚園

(1) 運営方針に対する成果について

令和元年度は、次年度園児募集を視野に入れた「子育て支援事業」を積極的に行うこと、また、その内容の充実を課題として取り組んできた。

平成30年度も一定数の企画を実施したが、令和元年度は通年での開催に取り組んだ。内容としては、「お話し会」、「親子で楽しむうた遊びの会」、「親子でヨガ」、「書道の会」等を実施し、各回とも積極的に参加する親子の姿が見られた。

豊かな自然に囲まれた環境を生かした屋外活動と並び、上記のような多彩な屋内活動の充実により、文化的活動の促す「思考力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性」のさらなる育成に繋がる成果となった。

(2) 教育目標等に対する成果について

本園の強みと言える、豊かな自然環境の中での生活に加え「自然とかわり、五感をはたらかせて知を育み楽しむ保育」「さまざまな思いを共感しあい、人とのかわりを豊かにしていく保育」に直結する取り組みを各学年に沿った内容で実施した。

具体的には、未満児と年少組における外部講師による歌遊び、年中組における担任交換による多彩な分野の体験、年長組における理事長によるお話会、高校のチアリーディング鑑賞等である。

また、全体に対してインクルーシブ研修、救命救急講習、嘔吐物処理研修を行った。その他、夕涼み会改め「夏祭り」を行った。課題もあったが、こども園化し PTA 活動の見直しを検討している中での活動としても意義があった。

(3) 募集活動等に対する成果について

入園説明会に向けて、地域新聞に一面広告を掲載し募集を行った結果、前年比241.7%の参加者を集めた。また、その後も随時間い合わせがあったため、少人数制による

見学説明会を11月までに3回開催した。

また、次年度の募集活動に向けての取り組みとして、未就園児が幼稚園の模擬体験ができる「幼稚園体験会」を3日間実施した。各回定員に達し、幼稚園の生活を伝えながらも、保護者のニーズを聞くことができ、意義があった。

(4) 新たに行った取り組み等とその成果について

- ①「学校安全計画」の整理、整備、作成を行うと共に、保育環境の安全を管理、確保するための安全チェックリストを作成した。これによりチェック項目を明確化し、月1回の定期点検を行うことを徹底した。
- ②避難訓練については、森の園舎における夏期保育中の訓練、新たな危機事象（弾道ミサイル発射に係る対応）に対する訓練、第2避難場所へ移動する訓練を新たに実施した。

(5) 在園児数等について

288名でスタートしたが、転居や児童相談所経由の児童を受け入れ、最終的には292名になった。月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通り。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	288	289	290	290	290	292	292	293	292	292	292	292

【年齢別在籍数／3月】

年齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍数	15	15	77	100	85

【職員構成】

職種	園長	主幹保育士	教諭	教諭パート	事務	職員パート	看護師パート	栄養士
人数	1	2	18(3)	18	1	2	1	2

(3月時：教諭3名産育休)

7. 明德本八幡駅保育園

(1) 保育園運営方針に関する成果について

園児数の推移は昨年度とほぼ同様であった。月々の募集により園児数の安定を図るよう市役所と連携を取り、一定の園児数を維持して運営を図ることができた。また、1歳児園児が転出するケースが多くなってきたことから、熟慮した受け入れを実施した。

月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通り。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	48	49	50	49	50	50	50	50	51	51	50	50

【年齢別在籍数／3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	合計
定員	9	18	18	45
在籍数	13	20	17	50

【職員構成表】

職 種	園 長	主 任	副 主 任	主任看護師	保 育 士	栄 養 士
人 数	1	1	1	1	9	1
職 種	パート(常) 調理師	パート(非) 調理員	パート(常) 保育士	パート(非) 保育士	保育補助	
人 数	1	3	7	6	1	

補助金交付対象となる特別保育事業、一時預かり事業、体調不良児対応型保育事業を例年通り実施した。

低迷気味だった一時預かり事業については、(一時預かりとはいえ)保育が丁寧であるという口コミが伝わり、延べ利用者数は昨年度比2倍の411名となった。

(2) 保育・教育目標と成果について

- ①保育士が(担当)年齢・クラスの園児に留まらず、広く全体を把握することに力を入れたことにより、保育のみならず、保護者対応面においても向上が見られた。
- ②2か月に1度、足型をとった結果をデータ化し、その結果が活動とどう結びついたかを各担当が検証し、保育の過不足の見直しを行った。それにより体調不良を起こす園児が少なくなり、体調不良型保育事業の実施数が減少した。
- ③年度末に行っていた新体制の保育環境整備を年末に行い、調整期間を設けることで落ち着いた状況で保育を見直すことができた。また、購入予定の棚を有効に使用する見直しにもなった。

(3) 募集活動と成果について

保育園見学案内時に、地域子育て支援「ポップスマイル」のリピーターが、保育士しながらに保育の状況を話してくれる姿が多く、見学者へのアピールとなっていた。

【保育園見学者数、合計()内は入園者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	4	3	14	11		13	32	16	14	4	4		115 (9)

(4) 新たに実施した取り組みとその成果について

離乳食開始の遅れ、保護者の調理離れによるベビーフードの使用により、子どもの咀嚼力の低下、誤飲を引き起こすことから、その予防のため、0歳児保護者に離乳食講習会を実施した。講義形式ではなく、実食をしてもらうことで、上記の理由を理解して家庭での喫食の参考にってもらうことができた。

(5) その他

自然災害が多く発生したこともあり、大規模災害に備え、防災加工シート避難車を購入した。また、これまでの避難車も防災加工シートに張り替え、安全に園児の避難ができるよう整備をした。

8. 明德浜野駅保育園

(1) 保育園運営に対する成果について

令和元年度は、当初より園児数42名（定員の116%）でスタートし、平均41.5人（115%）で推移したことにより、安定した運営を行うことができた。

昨年度末に主任保育士が学内移動となり、正規職員が1人少ない中での運営となった為、職員の残業が例年に比べ増加した。その改善策として次年度に向け、正規職員を補充し労働状況の改善に努めていく。月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通り。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍	42	42	42	42	42	41	41	41	41	41	42	41

【年齢別在籍数】（3月）

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	7	7	7	8	6	6

【職員構成】（3月）

職種	園長	主任保育士	保育士	主任栄養士	看護師	調理師
人数	1	1	13	1	1	2

(2) 保育理念及び保育目標と成果について

職員の入れ替わりが少なく、保育及び行事・環境整備等はリーダーや係を中心にスムーズに行なえた。「子どもを真ん中に」という本園の保育の基本を忘れず、保育の方法や行事の考え方等で迷いが生じた際は、考え方の主語を「子ども」もしくは「子どもにとって」と置き換えることで、解決の方法や方向性が導き出され、子どもが主役の保育が実現できるよう努めてきた。また、保育者は日々保育の振り返りをおこない、気づいたことを明日へとつなげ、保育の充実を図っている。

(3) 募集活動と成果について

認可園は直接的な園児募集ができないので、見学者や入園希望の相談には丁寧な対応を心がけている。次年度の入園予定者も第一希望での入園申請が殆どで、成果が表れていると考える。また、見学の際に保育方針だけでなく、子どもを保育園に預けるといふことの大変さや、心構え・準備しておくことと良いこと等、具体例をあげて説明することで、本園の方針等を理解した上での入園申請となり、入園説明会の際には入園後の話をスムーズに進めることができています。

(4) 新たに行なった取り組み等とその成果について

①開園10周年記念事業

開園10周年を迎えるにあたり、園内の行事等で使用する音響設備を整えた。プロジェクターを使用した投影やマイクの使用が可能になり、保育に活かすと共に、記念式典や卒園式等で活用することができた。

また、10周年記念式典を行った。明德20年プロジェクトとして毎年おこなっている「明德のつどい」とタイアップさせた卒園児、在園児のつどい、来賓を招待した記念式典を実施した。保護者や参加された方からの評判も良く、多くの方にお祝いをさせていただくことができた。今後も地域に根差した保育園運営をめざしていく。

②園外活動中の防犯対策

5月の初旬に発生した大津での園外保育中の事故等を受け、本園でも職員会議で防犯対策を話し合い、園児の安全確保に努めてきた。その後、「園外保育中の防犯対策について」検討し、金属バットの携帯とビブスの着用等の対策を早急に取り、園児の成長発達に欠かすことのできない戸外遊びの保障をしていった。

千葉市からも危険地点の調査があり、市職員と共に全ての箇所を確認し、今後の整備に繋げている。

(5) その他

①風水害による臨時休園について

9月初旬の台風15号の影響で停電及び断水の為、3日間の臨時休園を余儀なくされた。出勤できる職員が手分けをして各家庭に連絡を取り、トラブルが起きることなく休園期間を終えることができた。また、10月にも千葉市からの指示により台風19号接近による臨時休園があり、休園最終日には管理職3名が園内外の安全を確認する措置をとった。この他にも大雨による警報発令もあり、例年にない風水害対応をすることとなった。

この経験から、今現在不足している設備や物資をリストアップし、補充していった。

②新型コロナウイルス対応について

2月初旬より、新型コロナウイルスへの対応について、千葉市幼保運営課より多方面からの指示があり、手指消毒やマスクの着用・衛生管理等の対策を講じている。早期から消毒用のアルコールやマスク等を準備し、年度末に千葉市より新型コロナウイルス対策に対する補助金が出されたことから、空気清浄機4台と手指消毒用ディスペンサー2台を購入し、感染予防対策を充実させた。

③門扉の新設工事について

篠原欣子記念財団からの助成金で、経年劣化により閉まりにくくなっていた門扉の新設工事を施工した。これにより、門扉にも施錠が可能となり、夜間及び休日の防犯対策の充実を図ることが可能となった。

9. 明德やちまたこども園

(1) 令和元年の事業計画に記載した運営方針に対する成果について

令和元年度は、定員75名に対して在園児数77名で始まった。途中、転居による入退園が複数あったが、最終的には年度当初と同じ77名に落ち着き、平成30年度に引き続き収入超過となった。前進から引き継いだ園舎も老朽化が進み、園舎新築に向けた積み立ても行った。

人口の減少が続いている八街市に存続し続けるためには、地域の0、1、2歳の需要を受け止める必要がある。しかし、0、1歳用の部屋の床面積が小さいため対応出来ずにいる。

過去4年間、1号認定こどもの応募が定員に届かなかったため、令和元年度から定員を5名に下げたが、令和2年度の募集では4歳児4人、3歳児9人と幼児の応募が13人となり、定員を超えることとなった。

これは、子育て支援の「たんぼぼ」、「一時保育」を丁寧に取り組む月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通り。事でも入園に結びついていると考えている。今後これらプログラムの一層の充実を図っていく事が大切である。

また、2号認定こども、3号認定こどもの入園に関しては、園で選抜することができないため、市との連絡を密に行って行きたい。月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通り。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	78	80	79	80	80	80	80	80	79	79	79	79

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	5	10	10	18	15	21

【職員構成/3月】

職種	園長	主幹保育 教諭	保育教諭 (常勤)	保育教諭 (嘱託)	保育教諭 (パート)	栄養士	調理師	看護師	事務
人数	1	2	8	3	8	1	1	1	1

(2) 教育目標等に対する成果について

保育理念及び保育目標を具体化したため、保育のイメージが保育者一人ひとりにより具体的に描けるようになった。乳児会議、幼児会議でも幼児の姿の事例を挙げ、ふり返りを丁寧に行ったことから、指導計画、日案などの記述がより子どもの姿を捉えられるようになり、日々の保育が少しずつ充実してきている。

(3) 募集活動に対する成果について

1号認定こどもの入園児について、令和2年度は3歳児、4歳児とも大幅に増加した。これは、子育て支援、一時保育のプログラムの充実、地域とのコラボのやちまたマルシェなどの取り組み、ポスターなどを通し、町会や市の社協との関わりを深めてきたこと等による結果だと分析している。小まめに内容を更新しているホームページは年間で5万超のアクセスがあり、これも大きな力となっていると考える。

(4) 新たに行った取り組みなどとその成果について

四季に花が咲き実が成るように、園庭環境の再構成を重点的に行った。用具小屋や遊具の移設等により、子どもの遊びが大きく広がった。乳児用の園庭を砂場、泥場を中心に捉えて、ハンモックブランコを新設し、丸太ベンチを乳児用に低くして砂場近くに移設したところに、ミニコテージや親子すべり台が設置されたため、乳児と他年齢の児童との自然な交流が生まれた。

職員から自主的に「園庭会議」のグループが立ち上がり、今後も年度計画を立て園庭環境の再構築を行っていく。

Ⅲ. 財務の概要

1. 事業活動収支の推移

(単位：千円)

		科目/年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		教育活動収支	収事 入業 の活 部動	学生生徒等納付金	941,520	943,938
手数料	26,887			31,914	33,433	29,631
寄付金	7,200			10,287	14,580	11,453
経常費等補助金	862,267			933,936	1,088,950	1,181,173
付随事業収入	68,583			122,747	136,926	141,570
雑収入	179,844			114,689	113,964	82,413
教育活動収入計	2,086,300			2,157,512	2,336,971	2,443,030
支事 出業 の活 部動	人件費		1,541,964	1,513,378	1,623,874	1,635,553
	教育研究経費		345,314	370,801	417,598	472,923
	管理経費		167,136	226,378	222,675	259,338
	徴収不能額等		275	0	0	0
	教育活動支出計		2,054,689	2,110,557	2,264,147	2,367,814
教育活動収支差額			31,611	46,955	72,824	75,216
教育活動外収支	収事 入業 の活 部動		受取利息配当金	50	411	521
					0	0
		教育活動外収入計	50	411	521	515
	支事 出業 の活 部動	借入金等利息	21,363	19,113	18,790	18,367
					0	0
		教育活動外支出計	21,363	19,113	18,789	18,367
教育活動外収支差額		△ 21,313	△ 18,702	△ 18,268	△ 17,852	
経常収支差額		10,298	28,253	54,555	57,364	
特別収支	収事 入業 の活 部動	資産売却差額	0	50	0	0
		その他の特別収入	28,192	59,733	16,807	11,733
		特別収入計	28,192	59,783	16,807	11,733
	支事 出業 の活 部動	資産処分差額	2,279	222	2,105	9,251
		その他の特別支出	13,672	13,672	13,672	16,000
		特別支出計	15,951	13,893	15,777	25,251
特別収支差額		12,241	45,890	1,030	△ 13,517	
[予備費]						
基本金組入前当年度収支差額		22,539	74,143	55,585	43,846	
基本金組入額合計		△ 180,603	△ 86,039	△ 193,501	△ 46,844	
当年度収支差額		△ 158,065	△ 11,896	△ 137,916	△ 2,998	
前年度繰越収支差額		△ 3,755,599	△ 3,896,193	△ 3,908,089	△ 4,046,005	
基本金取崩額		17,470	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 3,896,193	△ 3,908,089	△ 4,046,005	△ 4,049,003	
事業活動収入計		2,114,542	2,217,706	2,354,299	2,455,279	
事業活動支出計		2,092,003	2,143,563	2,298,714	2,411,432	

(注) 金額は、すべての項目について千円未満は四捨五入で記載しており、合計額が一致しない場合もある。

令和元年度決算の基本金組入前当年度収支差額は、事業活動収入 24 億 5,527 万 9 千円に対し、事業活動支出は、24 億 1,143 万 2 千円となり、4,384 万 6 千円の収入超過となった。また、基本金組入後の事業活動収入は、24 億 843 万 5 千円となり、事業活動支出との差額である当年度収支差額は、299 万 8 千円の支出超過となった。基本金組入前当年度収支差額は、平成 24 年度から 8 期連続の収入超過となった。

2. 施設・設備への投資額の推移

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
施設関係支出	93,773	230,437	118,975	208,589
設備関係支出	12,511	24,401	16,497	17,966
合計	106,284	254,838	135,472	226,555

令和元年度の主な施設関係支出は、建物支出においては、高等学校1号館空調設備機器更新工事、正面玄関自動ドア設置工事、柔道場床・畳張替改修工事、短期大学及び学園本館におけるICT設備計画の5期工事としてWi-Fi環境整備工事等を実施した。構築物支出においては、高等学校北側テニスコートナイター照明設置工事、東門北側へ15台分の駐車場新設、山の園舎園庭へすべり台新設等を実施した。設備関係支出では、視聴覚室床改修と同時にワイヤレスマイク一式、スタッキングチェアの設置が行われた。又、書道教室、進路資料室の机及び椅子の更新を行い教育環境の充実をはかった。

3. 借入金の推移

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
長期借入金	458,427	510,160	508,257	553,399
短期借入金	450,174	400,972	417,803	376,303
合計	908,601	911,132	926,060	929,702

(注) 各年度とも3月31日現在の残高を記載している。

長期借入金は、前期末残高5億1,016万円に対し、新規借入1億3,500万円、期中返済金8,630万3千円を計上し、期末残高5億5,339万9千円となり、前年比4,514万2千円の増加となった。短期借入金の期中運転資金は、借入6億6,000万円に対して、返済6億9,000万円であり、期中運転資金の借入残高は3,000万円の減少となった。その結果、返済期限が1年以内の長期借入金の減少を含めて、長期及び短期の借金残高合計は、前年比364万2千円増加し、9億2,970万2千円となった。

以上

